

# 2024 ズバリ! 的中 世界史

## 同志社大学

### 中世ヨーロッパ文化とルネサンスに関する 空欄補充がズバリ的中

#### 入試問題

2月7日実施 学部個別日程  
〔I〕

〔I〕 次の文章を読んで、設問1～7に答えなさい。(50点)

12世紀になると、イスラーム世界で研究されてきたギリシア語の古典文献やアラビア語の学術書が、イベリア半島の( e )や、シチリア島のパレルモなどでラテン語に大量に翻訳された。これらの翻訳は西ヨーロッパの知識人たちに広まり、とくにイスラーム世界からもたらされたアリストテレス哲学は、ローマ＝カトリック教会の絶大な影響力のもとで最高の学問とされていた神学と結びつき、スコラ哲学に発展した。そのなかで、普遍的なるものの存在をめぐる、個々別々のものに共通する普遍的なものがあるという立場と、普遍的なものは思考の中にしか存在しないという立場との論争が大きな焦点となった。前者の立場に立つ( f )は、13世紀に『神学大全』を著して信仰と理性の一致をはかったが、14世紀には後者の立場に立つ( g )が信仰と理性の分離を唱えた。さらに、( h )に代表されるように、のちの近代科学に通じるような、観察と実験を重視する姿勢も生まれた。こうした学問は、やがて司教座の付属学校などを母体とした教師と学生の自治組織である大学を舞台に展開されるようになった。

またこの時期には、学問や行政文書で用いられたラテン語のほかに、騎士道文学に代表される俗語による文化も花ひらいた。

14世紀のイタリアでは、古代ギリシア・ローマの文化を模範とすることによって、人間の生き方そのものに光を当てる新しい文芸復興運動が起こった。その中心地は、毛織物業や金融業で栄え、大商人メディチ家が台頭していた都市( i )だった。文学では、詩人( j )が、知識人が使うラテン語ではなく地元の口語で『神曲』をあらわし、死後の世界の旅を通じて人間の生を描いた。また、( k )はラテン語古典の研究に努めるとともに、俗語で恋愛をテーマにした『叙情詩集』を書き、( l )は短編集『デカメロン』で黒死病流行下の世相を風刺した。15世紀には、建築家( m )がサンタ＝マリア(聖マリア＝デル＝フィオーレ)大聖堂のドームを設計し、画家の( n )が古代の神話をテーマにした「ヴィーナスの誕生」などで官能的な女性美を描いた。古典古代を模範とするいきいきとした人間表現は、システイーナ礼拝堂の壁面に祭壇画「最後の審判」を描いた( o )や、聖母子像で有名な( p )など、16世紀前半のローマで活動した芸術家たちにも受け継がれた。

#### 河合塾

大学受験科 基礎シリーズ  
世界史 演習編  
第11講 [1][2]、第12講 1[1]

#### 第11講

##### 【1】学問と大学

13世紀以降は医学や天文学などの分野でイスラーム科学の影響もあらわれ、それまで衰えていた自然科学の研究もしだいに進むようになった。実験と観察を重んじた13世紀のイギリスのスコラ学者( 7 )は、新しい自然科学の第一歩を示したものと見える。

中世の大学〔( 2 )語でユニウエルシタス〕は、教会や修道院の付属施設として始まり12世紀頃から各地に設立された。当時の大学は、教皇や国王の特許状によって設立された一種のギルドであり、教師や学生の自治的な団体という性格をもっていた。大学には、7自由学科を学ぶ人文学部(哲学部)と、専門課程として神学・法学・医学の3学部があり、フランスの( 8 )大学やイギリスのオクスフォード大学は神学、北イタリアの( 9 )大学は法学、南イタリアの( 10 )大学は医学で名声を博した。なお、中世の大学での講義は( 2 )語で行われていた。

##### 【2】美術と文学

また文学の面では、主にラテン語を用いた諸学問に対して、口語(俗語)で表現された中世文学の代表が騎士道物語で、ブルグンド人の悲劇をえがいたドイツの叙事詩『( 5 )』、カール大帝のイスラーム勢力との戦いで活躍した騎士をえがいたフランスの『( 6 )』、ケルト人の王を主人公とする『( 7 )』が知られる。また、恋愛をうたう叙情詩が宮廷をめぐる吟遊詩人によって歌われた。

設問1 文中の空欄 ( a ) ~ ( p ) に入る最も適切な人名・地名を、次の1~60の語群から一つずつ選び、その番号を解答欄 I - A に記入しなさい。

【語群】

- |                       |                    |               |
|-----------------------|--------------------|---------------|
| 1. アウグスティヌス           | 2. アペラール (アペラルドゥス) |               |
| 3. アルクイン              | 4. アンセルムス          | 5. イスファハーン    |
| 6. イブン=シーナー           | 7. イブン=バットゥータ      |               |
| 8. イブン=ハルドゥーン         | 9. イブン=ルシュド        |               |
| 10. ヴェネツィア            | 11. ウィクリフ          |               |
| 12. ウィリアム=オブ=オッカム     | 13. エラスムス          |               |
| 14. エル=グレコ            | 15. カイロ            | 16. グラナダ      |
| 17. コルドバ              | 18. サマルカンド         | 19. ジェノヴァ     |
| 20. ジョット (ジオット)       |                    |               |
| 21. ジョルダノ=ブルーノ        | 22. スウィフト          |               |
| 23. セルバンテス            | 24. ダマスカス (ダマスカス)  |               |
| 25. ダンテ               | 26. チョーサー          | 27. デフォー      |
| 28. デューラー             | 29. トマス=アクィナス      | 30. トマス=ペイン   |
| 31. トマス=モア            | 32. トレド            | 33. バグダード     |
| 34. ピサ                | 35. フィレンツェ         | 36. ブラマンテ     |
| 37. フランシス=ベーコン        | 38. プリューゲル         |               |
| 39. プルタルコス            | 40. ブルネレスキ         | 41. ペトラルカ     |
| 42. ベネディクトゥス          | 43. ベラスケス          |               |
| 44. ボッカチオ (ボッカッチョ)    |                    |               |
| 45. ボッティチェリ (ボッティチェリ) | 46. ホルバイン          |               |
| 47. マキアヴェリ            | 48. ミケランジェロ        | 49. ミラノ       |
| 50. ミルトン              | 51. メッカ            | 52. モンテーニュ    |
| 53. ラファエロ             | 54. ラブレール          | 55. リスボン      |
| 56. ルーベンス             | 57. レオナルド=ダ=ヴィンチ   |               |
| 58. レンブラント            | 59. ロイヒリン          | 60. ロジャー=ベーコン |

## 第12講

### ① ルネサンス (文芸復興)

#### 【1】 イタリア=ルネサンス

11世紀から13世紀の十字軍以来活発化した地中海貿易を独占して繁栄してきたイタリアの諸都市では、14世紀以降、ルネサンスと呼ばれる芸術・思想の面で人間性の自由・解放を求め、個人を尊重しようとする文化的革新運動が展開した。この基本的精神となったのが、古典の研究を通じ、理性と感情が調和した人間性豊かな生き方を追求するヒューマンイズム (人文主義) であった。まず学芸活動の中心となったのは、毛織物工業が発達した ( 1 ) である。この都市出身のダンテはトスカナ語で『 ( 2 ) 』を著してルネサンスの先駆者となり、その後、ラテン語古典の研究に努め、すぐれた叙情詩をつくったペトラルカ、黒死病 (ペスト) の流行を背景に『 ( 3 ) 』を著したボッカチオが続いた。また絵画でも、( 4 ) が出て、フレスコ画の技法を用い、『聖フランチェスコの生涯』などで中世以来の宗教画をテーマにしながらも、人間の生きる楽しみや感情・理性をより重視する新たなルネサンス様式を始めた。

15世紀はイタリア=ルネサンスの最盛期で、絵画の分野では ( 1 ) 出身の ( 5 ) が、『ヴィーナスの誕生』『春』などで中世には見られなかった古典古代のギリシア神話に登場する女神を描いた。建築でもルネサンス様式が出現し、大富豪の ( 6 ) 家のもとで繁栄した ( 1 ) には ( 7 ) が設計したサンタ=マリア大聖堂などが建てられた。

16世紀になるとルネサンスの中心は ( 1 ) からローマに移っていった。ローマでは、ブラマンテ・( 8 ) ・( 9 ) の設計により、ルネサンス建築を代表する ( 10 ) 大聖堂が新築された。( 5 ) にやや遅れて登場し、15世紀後半から16世紀前半に活躍した ( 8 ) ・( 9 ) ・( 11 ) は、ルネサンス美術の三大巨匠といわれる。彼らのうち、『最後の晩餐』や『モナ=リザ』を残した ( 11 ) は、イタリア各地を転々とし、最後はフランスに移って没した。『ダヴィデ』の彫刻やヴァチカン宮殿内のシステイナ礼拝堂に大天井画『天地創造』や祭壇画『最後の審判』を残した ( 9 ) は、『アテネの学堂』や多くの『聖母子像』を描いた ( 8 ) とともに、もっぱらローマを活躍の舞台とした。

設問5 下線部(ア)について、中世に誕生した大学の中で、とくに医学で有名だった南イタリアにある大学名を、解答欄 I - B に記入しなさい。

設問6 下線部(イ)について、カール大帝と騎士たちの武勲をうたった叙事詩の名称を、解答欄 I - B に記入しなさい。